



多満能画录

多満能画录

卷三

13
1455
3



門遠 13
番 1455
卷 3

田舎



燈下戲墨玉之枝卷三

東都 森羅子 著

○神壽花街

重仍ちかひの我宿わがしゆく和み入わづらりてを多く鳴呼なげ我過わがまりてあやま
てりし物もの瓜うり赤あかを立たて伏ふし中ちゆう依よびく歎なげ息いきが六む浦うらを
か洞ほらみ神かみが祀まつれ小こ百合はくげの長ながが侍さむらいへゆじをつとといふ
らへえ来き源げん秀ひでの書しよ樓ろうの婦めづ人といええり。能よ遊う若わかも
あまは過あま若わかめとあれ。一い夜よあまえて情なさけ涙なみだを謝あやまり流ながし
かろふかかあんん屋やを演あべしと今いまはと神かみ壽しゆ花はな街まちへ行いきか

正之技卷三

且と定買み嗅付られ。涼雪が難儀と成んも志す
ずや。心静に交交を週。五つのも立け。糸肉銀六和
洲。よと立成り。お親の安茶。家内。仕事。れ。越成。告
け。且。バ。涼。安。成。の。お。ひ。を。成。一。叔。系。を。前。め。も。中。之。
上。あ。く。せ。た。お。お。く。涼。花。の。り。な。遊。歴。一。ゆ。く
席。圃。お。す。ま。間。其。方。の。家。よ。り。先。み。本。圃。よ。ゆ。く。と。
其。羽。之。日。ゆ。ゆ。せ。わ。故。々。より。用。事。を。云。紙。あり。ゆ。え。
席。只。之。か。越。お。れ。成。為。持。成。産。ひ。く。行。李。成。擔。
り。せ。未。明。み。有。馬。成。業。只。一。曉。よ。行。夜。半。に。宿。し。
お。ぐ。に。程。なく。神。さ。れ。人。若。々。れ。其。お。の。旅。宿。よ。一。宿。

翌日あり。浴を梳て。衣紋さやうみ出うらろ。花街れ。氣を
を。見。く。お。れ。が。

神されの。越。き。も。と。え。と。涼。之。ぬ。り。と。上。と。行。ん。と。れ
道。の。か。し。と。い。め。人。の。依。り。も。今。の。堀。く。里。と。成。て。巷。の。柳
の。葉。み。の。大。氣。も。移。系。が。れ。街。の。花。れ。笑。顔。み。の。怪。虎。も。爪。成
と。も。お。べ。一。さ。れ。ば。さ。び。此。地。よ。持。つ。の。老。多。り。と。成。く。若
と。なく。熱。れ。室。若。何。を。身。に。負。て。之。の。淵。淵。よ。洗。ま。ぬ。お
し。室。仍。も。眼。目。も。悔。ら。ば。小。百。合。の。長。が。行。く。乃。ゆ。れ。花
車。を。呼。出。し。涼。雪。に。登。り。た。り。成。り。つ。と。易。に。車。中
あ。ぐ。ろ。先。ご。後。より。病。み。伏。し。枕。上。く。は。竹。へ。寄。り。入

下さねとと。又ハ雪舟も芳らざる。月う花うの若くは
遊び歌れ相うに見えまふも一息あらんと遊むれば
とよまの渠が病状の好くある態く来れる者なり。重初が
来りしと若くは。是ハ尚社の引出たりと白うね一ひら
子ゆよハ花車ハ大木悦び暫く安よ待と。只ハ花
二階上り。とけ有く。馳度り。深雪の馬申せしに。此
すハ伊ひまのうまや。殊ハ氣に申さる。いざささく
先子立治若くは。業肉。初ての清見系なれば。清
酒一献用意せんと。傍より。お替ハ入に。か。重初。障子
を静ふ。字ハ。お。深雪が。枕草に。立。と。此。経の。心。そ。ふ

瘦舟と後ハ。お。安。法。見。お。ひ。修。り。て。河。と。先。深。雪。ハ。漸
記。返。り。重。初。が。て。お。み。健。と。む。せ。び。入。く。法。指。が。若。が。淺
か。ら。ぬ。清。志。の。程。を。汲。知。事。れ。進。り。に。取。俱。み。其。目。り
お。ま。れ。と。宿。世。の。寄。縁。も。う。く。命。れ。中。よ。お。ま。と。あ。ら。は。る
事。の。妹。さ。よ。只。今。花。車。が。酒。肴。持。来。る。ハ。並。さ。る。ま。ぬ
の。盃。と。盡。未。來。際。う。ら。ぬ。固。め。の。契。約。せ。ば。お。ま。と。誓。を
と。お。ま。と。命。の。安。否。終。ふ。と。と。お。ま。と。並。事。更。お。ま。と。と。お。ま。
お。ま。と。悦。び。身。も。親。め。と。誓。う。人。の。今。は。河。舟。上
り。暫。く。此。地。に。留。り。て。茶。後。の。味。分。を。待。和。州。の。信。長
同。道。せ。ん。と。吐。き。新。来。り。深。雪。ハ。い。ら。う。病。苦。ハ。忘

五之支卷三

と。重行も又病者かふ事成忘れ肩み肩成寄せ。手に
をん。俗老のさうわ。いとあやうかふ。法師有み何能ん
や。あふ。う。隅の濱に焼網と撰拍あそ。あうたれ。法師
の交。後。個。ゆ。う。は。う。先。一。款。き。う。め。せ。と。花。車。が。け。う。や。死
高。な。ま。に。定。行。が。亂。も。訂。立。孟。の。と。死。上。れ。の。法。く。と。は
ぶ。て。り。あ。う。定。く。及。び。せ。あ。ひ。つ。う。ん。此。君。の。さ。う。う。ら
は。う。和。京。の。圓。か。ふ。平。祥。殿。の。衛。内。は。根。寄。せ。れ。也。那
屋。の。方。と。か。う。づ。う。れ。あ。せ。う。が。さ。せ。あ。子。細。あり。て。此。里。へ。り。と
と。二。夜。の。執。を。為。た。ぬ。へ。今。宵。成。物。束。の。初。う。て。病。平。金
の上。あ。く。り。永。く。通。り。せ。あ。う。へ。い。と。其。堂。へ。添。寄。れ。あ。人

ほりせ。あ。時。あ。取。て。の。け。女。所。と。長。柄。加。の。役。を。執。め。流
仲。あ。ち。成。住。ん。と。い。は。互。の。指。み。あ。ひ。を。合。て。死。な。れ。は。
添。寄。と。り。上。押。戴。き。い。し。げ。あ。ま。蓋。月。せ。が。花。車。へ。押。と。り。ま。
楓。も。見。事。の。欣。振。や。二。く。九。夜。の。法師。を。又。あ。を。指。け。申
と。七。と。き。り。ひ。を。う。く。駈。行。は。添。寄。法。を。添。寄。り。飲。さ。れ
と。堂。を。死。な。れ。只。今。も。は。う。せ。い。ぶ。と。は。こ。と。あ。二。世。を。ん
望。め。か。れ。が。改。め。く。つ。ら。ら。よ。と。憚。あ。が。う。指。長。と。欣。ん。と。す
あ。成。押。と。免。の。句。ご。幸。復。あ。れ。は。け。に。飲。る。れ。が。害。と。あ。ん
只。其。ま。に。く。ら。れ。し。や。取。上。て。丁。と。乾。し。新。契。物。れ。堂
を。た。れ。上。へ。今。よ。と。後。へ。家。妻。かり。吏。の。身。と。て。妻。乃。病

を見まぐはるる。禮となり。全候の共日浦く。日毎に來
て着病とて。今其旅宿も用事あるは。又こぼり
來りてと。名残押しけふ立上れば。涙を合とあらしま。外
志のたふ依依え。立去るくも。淺く二階と下
來。是の花車へ付て。走り出。日暮ゆぐり。若くつねまじ
只今猪部も個ひれば。今暫くと。いぬふ。致ゆぐり。不
あれ。必ありと。宿を去る。つりけふ。右島が此
地へ來り。いえ。より外も用事のみ。深雪にまゐる。爲れ
ば。病氣は。只今。名目あり。夜ごと。日毎も。通ひ。張と。花車
が。知れぬ。子細あり。まの。世事に。ま。跡と。れ。人情と。ま。

押の六かたれ。忘八主婦が。錢を。欲する。心。傷み。み。も。是
つ。と。重。浪。毘。花。費。み。あり。ま。の。経。の。物。成。も。上。進。と。そ。子。ゆ
且。の。者。附。の。者。み。等。し。は。深。雪。が。病。の。右。島。を。相。あ。す。り
の。氣。候。た。れ。は。活。人。參。湯。れ。効。能。あり。敏。み。等。復。した
れ。も。病。氣。と。病。り。引。籠。り。明。れ。重。み。と。飲。樂。は。極
む。且。と。と。知。れ。が。み。見。道。し。盡。へ。大。深。雪。が。方。身。代。の
重。み。百。兩。の。内。又。十。金。分。引。減。り。は。百。兩。十。兩。の。人
が。引。引。の。勤。め。も。出。され。は。引。せ。重。同。分。密。し。高。ふ。と
同。後。あ。れ。は。忘。八。が。た。め。ふ。の。初。く。大。な。み。徳。分。ち。り。故。十
分。み。等。し。け。ふ。え。來。重。の。出。ま。は。生。の。事。か。れ。は。重。浪



玉之松卷三

ちくも殺多しう寝入に衣被個なもた事を聞かせざ
 りとくれの囊中母のづうう空しくなり。若衆も大抵暮ら
 し。あぐれ指と葉を拵は。嫁風あふぬれば花車が為
 笑も若衆となり。軽薄やとあ言と習り流る。深雪
 見えみほけりけと。手号の個夜をさめす人々
 大深おれ方へ引る。とくれは。重根み換へき。道具
 のかく。只若衆のまこれ給の外。嫁身は衣被をよへられは。
 若衆をえは。ぼくもたてもた。穉みまをこる。其味を。
 泣く。外の事をあら。かふうれ世みたがうへ。いり
 流る。茶れりす。でもつうれ。夢は同成見ん。よる。いぬに

依く秋暮れ。病よりとせ。之きえかぬ。いものをと。死を
 とうれ。より外の家。いえ。よる。花車へぬけ。目かく。二人
 が。ま。指り。亂れ。付れば。あ。其。味。の。つ。れ。流。や。い。り
 あ。坂。の。せ。れ。の。戸。み。せ。れ。と。老。ら。け。く。字。ゆ。さ。い。縁。宿。に
 志。と。り。長。あ。り。じ。が。若。衆。難。用。名。此。負。同。十。金。あ。ま。り。り
 だ。と。き。れ。い。着。屋。の。つ。う。と。と。を。即。か。せ。れ。と。此。俵。た。く。く。に
 て。六。償。ん。事。も。あ。ら。う。か。し。と。催。使。み。お。ひ。た。れ。と。重。子
 ち。た。れ。が。形。去。為。な。う。と。て。づ。づ。疎。ア。し。衣。被。大。小。ま。で。重。く
 丸。あ。げ。た。さ。け。あ。く。も。進。出。し。た。れ。い。重。ち。面。か。く。して。袖。と
 ひ。く。夜。い。小。百。合。う。門。け。れ。志。の。び。奇。せ。先。く。深。雪。が。あ。ま。ぬ

つゝ病者のせんり十倍。其のこぼれ世にまされたり。摩角らにわろふたんとし、其高きやうれをうたうね。此命たりちごとと。醫師のたごふをいごし、がまぐ。目これ入用なくあはれ事かれば、忘八主婦もすとぬ。あまに押しびけね。されどと一つのさいとあら。大浜ちが。うごよと身のしほれまがね。此月のをどめより。一言れ。催促のしほれ忘八のよみ落たる重ゆ。不詮り死す人。ほごき事をとんきうてのこと。ぬべしと主婦の密に悦ぬ。

枕下戲墨玉之枝卷三

